

中高連連携陶芸教育

「登り窯焼成体験（陶芸部）」

7月に実施した、中高連携陶芸教育（波佐見中学校1年生と本校陶芸デザインコース3年生との陶芸交流）で制作した作品を、波佐見町村木郷にある国指定史跡『畑ノ原登り窯』で焼成しました。

10月4日（土）、中学校と本校美術・工芸科1年生と陶芸部の作品を持ち寄り、窯詰めを行いました。実際に窯の中に入って、600点ほどの陶芸作品を並べました。初めて入る窯の中は意外と広いことに生徒たちは驚いていました。1点ずつ丁寧に破損がないように注意しながら4時間ほどで窯詰めを終了しました。

10月11日（土）～12日（日）、24時間かけて登り窯の焼成体験を実施しました。窯の温度を計画的に上げるために薪を数本ずつ投げ入れ、最高温度は1300度近くまで上昇し終了しました。一昼夜、炎と格闘した生徒たちでしたが、登り窯を焚き上げた充実感でいっぱいの様子でした。

1週間後の10月19日（日）、窯出しを行いました。自分たちの作品がどんな風に焼き上がっているのかと期待して窯の中をのぞき込む生徒達。窯に沿って整列し、バケツリレー方式で作品を運び出しました。時折、自分や友人の作品を見つけ、良い出来上がりに歓声も上がりました。薪の炎で焼成するといった、自然の力を借りてできた器は、自然釉が程良く掛かり優しい風合いの作品に仕上がりました。（美術科 立井 匡樹）



正月門松カードをデザイン

「3年綾香君が第1位！」

毎年、お正月前に各家庭に配付される門松カードデザインを、本校美術部の3年の綾香諒一君がデザインしました。

この門松カードは、毎年作成されているもので、8万部以上印刷され、長崎県内の各世帯に配付されます。

これまで、一般の方が制作していましたが、高校生の若い感性で制作してほしいという依頼を受け、本校美術部と美術・工芸科の生徒が制作しました。本校から23点応募し、以下の上位3名が選出されました。

- 1位 3年3組 綾香 諒一 君
- 2位 1年5組 栢田真由美 さん
- 3位 1年5組 西村 夏希 さん

9月9日（火）、長崎県新生活運動協議会の園田秀俊事務局長から陶芸デザインコース3年の綾香諒一君に感謝状が贈呈されました。これは、お正月に各家庭で使用する「門松カード」のデザインをしたことに対するもので、高校生が門松カードのデザインをしたのは初めてだそうです。綾香君は、パソコンソフトを使って、1ヶ月余りで制作しました。絵柄は、来年の干支である羊と、お正月にふさわしい松竹梅。本人は、将来、デザイン関係の仕事我希望しており、今後のさらなる活躍が期待されます。（美術科主任 岩永 聡志）



文化祭 「みんなが笑顔になりました」

文化祭が「あなたを笑顔に！」をテーマに、10月24日（金）・25日（土）に実施されました。生徒会では、全校生徒が笑顔にしたい人の名前を書いたカードでコーラージュを作成し、体育館で披露しました。「笑顔」と大きくデザインされたコーラージュは、展示やステージ発表で頑張る波高生を優しく見守っているように感じました。

初日に行われた芸術鑑賞会では、劇団道化による「吉林食堂」が上演されました。演劇の上演を間近に見て感動した生徒もたくさんいたようでした。ゲストで出演した川瀬先生、木藤先生、3年柚木くん、渡木くんの熱演も印象的で、多くの生徒が最後まで真剣に見入っていました。

2日目は、天候にも恵まれ、学校を開放して多くの保護者や一般の方々が来校し、展示や発表、バザーなどを楽しんできました。食物バザーやフリーマーケットでご協力をいただいた保護者の皆様、ありがとうございます。各種表彰は次の通りです。展示の部の最優秀賞は1年5組、ステージ発表の部の最優秀賞は1年3組でした。

また、生徒会企画「のど自慢」の1位は3年渡木拓也君、2位は3年藤谷茂雄君でした。

限られた準備期間の中、それぞれが工夫をし、創造的で素晴らしい文化祭でした。達成感と共に、みんなが笑顔になりました。（生徒会指導部主任 田原 孝一）



〈校訓〉 自律・積極・究理

波高通信



〈スローガン〉 人間性を育み、仲間を支え、個性を磨く

第7号 平成26年10月31日発行

校長室より 「実りの秋」に



2年に一度の大文化祭が感動のうちに終わりました。私は出張の関係で、皆さんの準備の様子を見る事ができなかったので、どんな文化祭になるのだろうか、とても楽しみにしておりました。その半面、準備は間に合ったのだろうかという不安もありました。しかし、当日は各部やクラスの団結、工夫や一生懸命さが伝わってきて、見る者に大きな感動を与えてくれました。母の会や親父の会のバザーなどもあり、「チーム波佐見」の一体感を強く感じた文化祭となりました。

また、皆さんの演劇を鑑賞する態度は、大変すばらしかったと聞いております。中には涙を流した人もいたそうですね。そういう素晴らしい感性を持った生徒がたくさんいる波佐見高校を私は誇りに思います。今年のテーマである「あなたを笑顔に！」のとおり、皆さんのおかげで私も笑顔になりました。来場された方々はもちろん、一緒に準備を進めた仲間など、たくさんの笑顔があふれた1日でした。

さて、野球部やサッカー部の皆さんが、6月に野々川の棚田や川内の田圃に植えた稲は、8月の長雨の影響を受け、生育が心配されました。その間、野々川や川内の地区の方々が毎日田圃の様子をみて水の状態を調整したり、除草や害虫の駆除などをこまめに行ったりと、苗の生育に常に気をつけていただいたおかげで立派に実り、先日稲刈りをしました。

やっぱり稲も、毎日見てくれたり、「頑張れ」と声を掛けてもらったりすると、沢山実ってくれるようなのです。稲の成長を願って毎日田圃に通うその人の思いが、稲の成長を促すということでしょう。「稲は人の足音を聞いて育つ」とも言うそうです。

このことは、私たち人間の成長にも当てはまるのではないかと思います。あなた自身を田圃の稲に例えてみましょう。あなたを成長させる「足音」とは一体何でしょうか。親、先生や友達からの励まし、様々な体験、部活動、勉強などが挙げられます。あなたの周りには、あなたの成長を願って見守っている人がたくさんいてくださることに気付くはず。その方々を笑顔にするために、そして、自分自身を笑顔にするために、今、何をすべきかをじっくり考え、自分自身を大きく育てていってください。

実りの秋です。皆さんの豊かな実りを期待しています。（野田 定延）



すてきなハバママ未来体感

「初めての抱っこ」

10月10日（金）、2年4組35名の生徒を対象に「ステキなハバママ未来体感」を実施しました。波佐見町健康増進課のご協力のもと、波佐見町在住の乳幼児親子11組の皆様が参加してくださいました。

生徒は1学期に家庭科の授業で「乳幼児の発達や成長、生活」について学び、その後、グループで準備を重ねて「体感」の日を心待ちにしていました。日頃、乳幼児と触れ合う機会がほとんど無い生徒は、最初は緊張した面持ちでしたが、お母様方から妊娠や出産、育児についてのお話を伺い、少しずつ乳幼児に慣れてきました。そして、全ての生徒が参加して良かったと感じたようでした。

生徒からは、「赤ちゃんを抱っこしたら笑顔でアーと話してくれました」「赤ちゃんに触れ合っ、可愛いなと思いました」「こんなに小さくても生きているんだ。命の大切さを体感できました」「親になることの責任を知りました」「育ててくれた自分の親に改めて感謝したいと思いました」等の感想がありました。



参加して下さった乳幼児親子の皆様、ありがとうございました。
（家庭科主任 井上 育子）

高齢者宅訪問活動

「交通事故に気をつけて！」

10月11日（土）に波佐見町交通安全母の会連合会主催の「高齢者宅訪問活動」があり、本校のサッカー部と柔道部の生徒25名が参加しました。南小学校体育館で出発式を終え、町内22地区の高齢者のお宅を、母の会会員、波佐見中学校生徒、川棚警察署の署員の方々と一緒に訪問しました。訪問先では、自己紹介の後、高齢者が関連する交通事故の撲滅を願って「必ず横断歩道を渡ってください。散歩する時や夜間は明るい目立つ服装にしてください。」と声をかけ、反射材やお守りをお渡ししました。参加した本校生にとっても、交通安全の意識を高める機会になりました。来年度も部活動生が参加します。（教頭 木村 広）



クリーンアップ波佐見 「感謝の気持ちを込めて」

10月10日（金）に第2回クリーンアップ波佐見を開催しました。PTAの皆様、ライオンズクラブの方々も多数ご参加いただき、校内と学校周辺、やきもの公園とウェーブホールを掃除しました。生徒はクラス単位でそれぞれの掃除区域を、町内の皆様に日頃お世話になっていることへの感謝の気持ちを込めて取り組みました。

生徒には、クラスの団結や協調性を身に付けてほしいという目的もありましたので、各学年ごとに、一番熱心に団結して取り組んだクラスを校長・教頭・PTA中野副会長・母の会山川会長に審査していただき、ベストクリーン賞として表彰しました。

結果は以下のとおりです。

1学年 1年1組（万年橋交差点～波佐美神社）

2学年 2年3組（やきもの公園・ウェーブホール）

3学年 3年4組（校内中庭除草作業）

表彰にもれたクラスもごみの分別など協力して取り組んでおり、審査員の皆さんは審査にとっても迷っていらっしゃいました。

作業終了後の生徒たちの達成感の溢れる爽やかな表情が印象に残りました。（保健主事 得永 健）



ビジネスマナー講話 商業科全員集合！

10月15日（水）5・6校時に全学年の商業科を対象に産業教育民間講師招聘事業を開催しました。今年度は麻生情報ビジネス専門学校の徳久晶子先生を講師としてお招きし、「ビジネスマナー」をテーマに講話をしていただきました。

徳久先生は、多数の企業・病院などにおいて社員・職員のマナーセミナー及び、九州沖縄・山口県の高校生向けにも年間約250回の各種セミナーを実施されています。その中での実体験を交えながら、話をされたことで生徒たちは興味深く熱心に聞いていました。生徒に対して、「**目標を具体的に数値化する**」「**当たり前のことをちゃんとやる**」「**はいっの返事**」などの話をされ、生徒は自身の普段の生活を振り返るよい機会となりました。この講話を聞いて、今後の学校生活で取り入れたいことについて生徒が書いた一部を抜粋します。

- ・当たり前のことを当たり前になす人になる。（3年男）
 - ・テストには科目ごとに何点取るか目標を数値化して臨む。（3年女）
 - ・「はいっ」と感じのよい返事をする。（2年男）
 - ・話をしている人に、話しやすいように聞き方を工夫する。（2年女）
 - ・話を聞くときには、意識して先生の目を見て話を聞く。（1年男）
 - ・難しい検定試験でも諦めず努力をし、合格を勝ち取る。（1年女）
- （商業科主任 丸屋 陽子）



第3回オープンスクール

10月18日（土）、第3回オープンスクールに、生徒・保護者あわせて93名が来校されました。今回は、普通科・商業科の会場、美術・工芸科の会場にそれぞれ分かれて開催し、各会場で特色を持たせました。普通科・商業科への参加者は、昨年度の高校入試の問題（実物）を見ながら、入試5教科の受検アドバイスに耳を傾けました。勉強の方法や学習分野など、重要な部分をメモしていたので、きっと今後の学習に役立ててくれるものと思います。

美術・工芸科への参加者は、学科の説明の後、デッサン教室で風過ぎまでキャンパスに向かっていました。本校3年生の美術部員が時折アドバイスをしたこともあり、緊張の中にも和やかな雰囲気の流れてました。

本日来校した中学生の皆さんが全員、来春の高校入試に合格することを願っています。

（教務主任 安達 健）



2年陶芸教育 匠の技に感動！

10月8日（水）に2年生全員が参加して陶芸教育が行われました。

1年次には波佐見の陶磁器に関する史跡の見学を行いました。2年次の陶芸教育では実際に作品の制作を行い、陶芸に対する理解を深めました。指導は地域からお招きした伝統工芸士の方7名にお願いし、陶芸デザインコースの生徒も指導を補助しました。ろくろ体験で、お手本として伝統工芸士の方々が巧みに器の形を作られると、生徒の中から大きな歓声が上がっていました。その後、希望する生徒がろくろを使った制作を体験しましたが、なかなか形にならず、磁器制作の難しさを体感した様子でした。ろくろ体験の後は、一人一つずつ「ひも作り」で作品を作りました。なれない作業に苦労しながらも、皆真剣に制作に取り組んでいました。体験終了後、生徒からは「焼き物を作るのは初めてだったが面白かった」という意見や「貴重な経験ができた。機会があったらまたやってみたい」等の感想が聞かれました。

（美術科 立井 匡樹）

